



ことばの力



からだの力



こころの力

# 園長室だより



城南学園幼稚園

園長 太田友子

令和3年4月30日

「小学校につながる確かな学びの基礎を培う」幼稚園

## 風薫る季節

- 「共に育つ幼稚園」をめざして！ -



風薫る、心地よい季節となりました。新年度が始まり、早くも一月が過ぎました。

年少の子どもたちは、一日一日、幼稚園の生活に見通しをもてるようになり、好きな遊びを見

つけたり、先生のお話を聞いたりするようになってきました。通常保育が始まり、体力の限界？で眠ってしまう子どもの姿も見られますが、この時期ならではの可愛い姿にほっこりします。心身ともに全力で新しい世界を切り拓こうとしています。

年中の子どもたちは、二階の保育室まで少し遠いのですが、回を重ねるごとに安心して登園できるようになってきています。保護者の皆さまには、適切な登園時刻にお子さんを送っていただけており、ご協力に感謝しております。

年長の子どもたちは、この間まで年中児だったはずなのに、一段と落ち着きが感じられるようになりました。子ども自身が意識する「節目」を迎えることはとても大切なことですね。子どもが主役、どのように感じているか、意識しているかが重要なのです。

また、泣いている年少児にそっと寄り添い「お母さんがいいねなあ。」と、気持ちを共感してあげたり、トイレの使い方がうまくできない4歳児には、「どこがあかんのか、わかる？」と視線を合わせて、丁寧に諭してあげたりする姿も見られ、感動の連続です。

建学の精神「つよくだしい」「きよくやさしい」が示すとおり、本当の強さとは、他者へのいたわりが示されることでしょう。子どもに教えられる思いがします。

自分がしてもらったことは、また次に、自分から誰かにしてあげる…。本園の子どもたちは、ご家庭で大切に育てられていることが良くわかります。

異年齢で、満開のつつじを鑑賞しに散歩にも出かけました。きつと心に残る貴重な体験となることでしょう。



「小学校につながる確かな学びの基礎」

「共に」育てていきましょう。

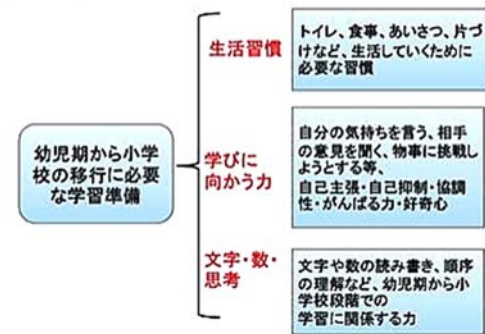
本園の教育指針は「小学校につながる確かな学びの基礎を培う幼児教育を展開することです。では小学校につながる確かな学びの基礎って何でしょうか。ここでもう少し考えてみたいと思います。

幼児期にはいわゆる、「見える学力」である「読み書き計算」はそぐわないのは言うまでもありません。

一方、いわゆる「見えない学力」である「がんばる力」「好奇心」「協調性」「自己抑制」などですが、幼児期に育つほど、後の「見える学力」の育ちがスムーズになるという調査報告(以下参照)があります。

そして、注目すべきことは、その前提としてまず、「生活習慣」がその後の成長と大きく関わること、改めて明らかになったのです。

図1. 小学校以降の学びや生活に適応するために必要な力



3歳児から4歳児にかけての時期が「学びに向かう力」(自己抑制、好奇心、協調性)が大きく伸びることが分かり、その力を支えているのが3歳児の生活習慣なのです。4月号でご紹介した「ご機嫌さんで登園できる力」は、「学びに向かう力」を伸ばすための基礎作りとして大変重要であることが明らかになったのです。

本園の大切にしている指針、ご家庭と「共に育てる」がありますが、家庭生活と園生活を通して、「学びに向かう力」を育てていきましょう。



詳しい調査結果にご関心のある方は、

「ベネッセ 家庭教育国際調査」、または、  
<https://berd.benesse.jp/>で検索して下さい